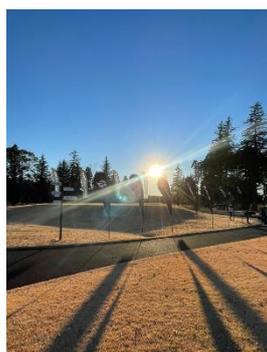


The 4th Speeder CHALLENGE 2021 決勝

池村寛世プロ、宮田成華プロによるプレーオフも決着つかず、2名同時優勝。

2021年9月より始まった第4回スピーダーチャレンジ予選会は、北は東北/南は九州より全国4地域/7会場、約1000名の参加者が集まり、例年以上にハイレベルな競技会となりました。そして、予選会を勝ち上がったプロ・アマ含めた129名と招待・推薦・大会シード選手合わせた14名の合計143名は、2021年12月14日(火)、昨年と同じく茨城県屈指の名門コース「イーグルポイントゴルフクラブ」にて決勝大会を開催。気温も低く、午後から雨予報と厳しいコンディションが予想される中、全選手が定刻7時20分よりスタートしました。



早朝は快晴もお昼には雨が降り始めた



10番ホールとdriving rangeの間に建つ「CAFÉ NO.10」



朝一の練習場 生芝からショットが打てるのも決勝ならではの特徴だ



飛球線上に朝日が昇る



協賛各社から豪華記念品が用意



決勝大会は帯同キャディが可能



スタートテントで競技説明を受ける、アマチュアと永峰咲希プロ



スタートテントで競技説明を受ける、アマチュアと松田鈴英プロ

シングル部門に参加する男子アマチュア一般、ジュニア、プロ選手は全長7123ydのゴールドtee、また女子アマチュア一般、ジュニア、プロ選手は6109ydのブルーtee(通常はホワイト)を使用しその差は1014yd。またダブルス競技は男子6109yd、女子5055ydで行われ、男女別の距離差に加えチャンピオンコースならではの戦略性、また高速グリーンをいかに攻略するかが上位入賞の鍵と予想。選手関係者、大会関係者、報道各社が見つめる中、勝負の行方を見守りました。

そして今大会の狭き門を通過した、男女トップアマチュア・ジュニア・若手プロが挑むのは、以下招待選手。

【男子】塩見好輝(国際スポーツ振興協会)、中西直人(国際スポーツ振興協会)、清水大成(ロピア)

池村寛世(デライトワークス)、野仲茂(横浜CC)、塚田陽亮(ホクト)

【女子】永峰咲希(ニトリ)、三ヶ島かな(ランテック)、松田鈴英(ニトリ)、宮田成華(スリーポンド)

脇元華(GMOインターネットグループ)、篠崎愛(フリー)、岡山絵里(ニトリ)

豪華なトッププロが集結し、1日競技、優勝200万円、賞金総額400万円をかけ、戦いの火蓋が切られました。

まずダブルス部門から。ハーフ終了時点でアウトからスタートした、中部予選会メダリストの木ノ下美宇/清本美波ペア、そして2019年・2020年覇者、大会シードの村井忠行/山下ユナペアの両チームが、共に4アンダー/32ストロークでターン。続く九州予選会代表の永井勝己/岩下政稔ペア、更に開催コースを熟知する、開催コース推薦の窪田恵介/重藤亮一が3アンダー/33ストロークで3位タイにつけ、上位9チームが3打差で追う展開に。

そして最終結果は後半を3バーディ、1ボギーの34で回った、木ノ下美宇/清本美波ペアがトータル6アンダーの66でホールアウトし、1打差で逃げ切って初優勝。大会シードの村井忠行/山下ユナペアは惜しくも1台及ばず5アンダー/67でラウンドし第2位。後半を3バーディ、ノーボギーで回った窪田恵介/重藤亮一が猛追するも、35/33=68の4アンダーで第3位という結果になりました。



ダブルス優勝の木ノ下美宇 ダブルス優勝の清本美波 ダブルス2位の村井忠行 ダブルス2位の山下ユナ 決勝会場でも和気調々 もちろんシャフトはスピードー！

注目のシングル競技は、ハーフ終了時点でジュニア 上村大和（市川市立第五中学）、招待選手 宮田成華（スリーポンド）が3アンダーで首位。続く2アンダーでアマチュアの平野大樹、松田鈴英（ニトリ）、永峰咲希（ニトリ）、塩見好輝（国際スポーツ振興協会）、1アンダーにジュニアの春山愛（福岡第一高校）、青山ゆずゆ（西条市立西条東中学）、江坂実桜（一身田中学）、勝俣翔（法政大学）、岩崎亜久竜（フリー）、池村寛世（ディライトワークス）、大西魁斗（フリー）、中西直人（国際スポーツ振興協会）、塚田陽亮（ホクト）が続き、男女、カテゴリに関係なく混戦模様。



アマチュアの平野大樹 中西直人（ISPS） 野仲茂（横浜CC） 池村寛世（ディライトワークス） 松田鈴英（ニトリ） 男子シングルのスタート時は曇り空に

そして、後半に入り続々と選手がホールアウトする中、インからスタートした宮田成華が35/33=68の4アンダーで暫定単独首位をキープ。2位以下と1打差でこのまま優勝かと思われたが、アウトからスタートした池村寛世が同スコアの35/33=68の4アンダーでフィニッシュし、そのままプレーオフへ。

- ① プレーオフ1ホール目。宮田成華、池村寛世共に1オン。カップ左サイドにつけた池村寛世はきっちり寄せてパー。カップ手前3mにつけた宮田成華は僅か5cm及ばず同じくパー。
- ② プレーオフ2ホール目。宮田成華、池村寛世共に1オン。どちらも決めきれず、同じくパー。
- ③ プレーオフ3ホール目。池村寛世は左サイド5mからのロングパットを決めバーディ。勝利を確認し小さくガッツポーズ。追い込まれた宮田成華は右サイド4mのバーディパットをねじ込み勝負つかず。日没により、プレーオフは3ホールで終了、競技委員会の裁定により、2名同時優勝という結果になりました。

プレーオフ（9番ホール PAR3 繰り返し）

選手名/ PAR	3	3	3
池村 寛世 プロ男子	3	3	2
宮田 成華 プロ女子	3	3	2



プレーオフ1H目。僅かに届かず悔しがる宮田成華



プレーオフ開始時は雨も止み、奇跡的に西日が選手を照らした



勝利の瞬間を見ようと、多くの関係者が9Hグリーンで選手を見守った



プレーオフ終了後はカテゴリ別の上位入賞選手を対象にした表彰式が行われた

詳しい大会結果は以下を参照ください。

シングル選手権 総合成績 http://speederchallenge.jp/wp-content/uploads/2021/12/FSC2021_singleall_20211214.pdf

ダブルス選手権 総合成績 http://speederchallenge.jp/wp-content/uploads/2021/12/doubles_20211214_2.pdf